

<b>区分</b>	専門分野	<b>単位</b>	2単位
<b>科目名</b>	経過別実習Ⅰ	<b>時間数</b>	90時間
<b>講師名</b>	専任教員	<b>履修学年</b>	2年次
<b>概要</b>	周手術期から回復期にある対象に対しての看護を実践するための基礎的能力を養う。		
<b>学習目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期による生体侵襲に伴う変化が理解できる。</li> <li>2. 疾患の病態生理、手術方法、術後の経過や合併症リスク、手術によって生じる問題を理解し、日常生活の変化を関連させて考えられる。</li> <li>3. 術後合併症や異常の早期発見に向けたアセスメントができる。</li> <li>4. 身体機能の維持・回復促進、ADLの再獲得の援助ができる。</li> <li>5. 合併症・二次的障害を予防し、生命維持と苦痛緩和のための援助ができる。</li> <li>6. 周手術期における保健医療チームの連携について理解できる。</li> <li>7. 医療チームの一員として看護師の役割を自覚し責任ある行動がとれる。</li> <li>8. 実践した看護を振り返り、周手術期の看護が述べられる。</li> </ol>		
<b>授業内容（実習内容）</b>			
<p>実習場所： 市立函館病院（病棟・手術棟）</p> <p>実習方法： 3週間の実習を行う。</p> <p style="padding-left: 20px;">経過別実習Ⅰオリエンテーション（2h）</p> <p style="padding-left: 20px;">病棟実習では受持ち患者を受持ち看護実践する（64h）</p> <p style="padding-left: 20px;">手術棟は主に見学実習とする（24h）</p> <p>実習内容： 別紙参照</p>			
<b>使用教科書・教材・参考書</b>			
各実習先で必要な教本を参照			
<b>成績評価の方法</b>			
出席状況、実習目標の達成度、実習姿勢、記録物による総合評価			
<b>備考</b>			
<p>実習準備・オリエンテーション実習開始前に行う。</p> <p>実習前に課題レポートを提出する。</p> <p>実習期間中は、自己の健康管理に十分留意する。</p>			